

2012年5月期
第2四半期決算説明会

(証券コード：7713)

シグマ光機株式会社

2012年1月16日(月)
東海東京証券株式会社 ホールA・B

1. 2012年5月期第2四半期 決算概要
経理部副部長 石井 康之

2. 2012年5月期 通期見通し
取締役経営企画室長 山口 秀一

3. 2012年5月期 成長戦略
代表取締役社長 森 吟二

4. 質疑応答

1. 2012年5月期第2四半期決算概要（連結）

（単位：百万円未満切捨）

	2011/5期 2Q		2012/5期 2Q			
	2Q 累計実績	構成比	期初予想	累計実績	構成比	前期比 増減率
売上高	3,465	100.0 %	3,510	3,373	100.0 %	-2.7 %
営業利益	332	9.6 %	145	261	7.7 %	-21.5 %
経常利益	396	11.4 %	200	324	9.6 %	-18.2 %
当期純利益	227	6.6 %	110	176	5.2 %	-22.1 %
1株当り当期純利益（円）	30円49銭	—	14円77銭	23円63銭	—	—

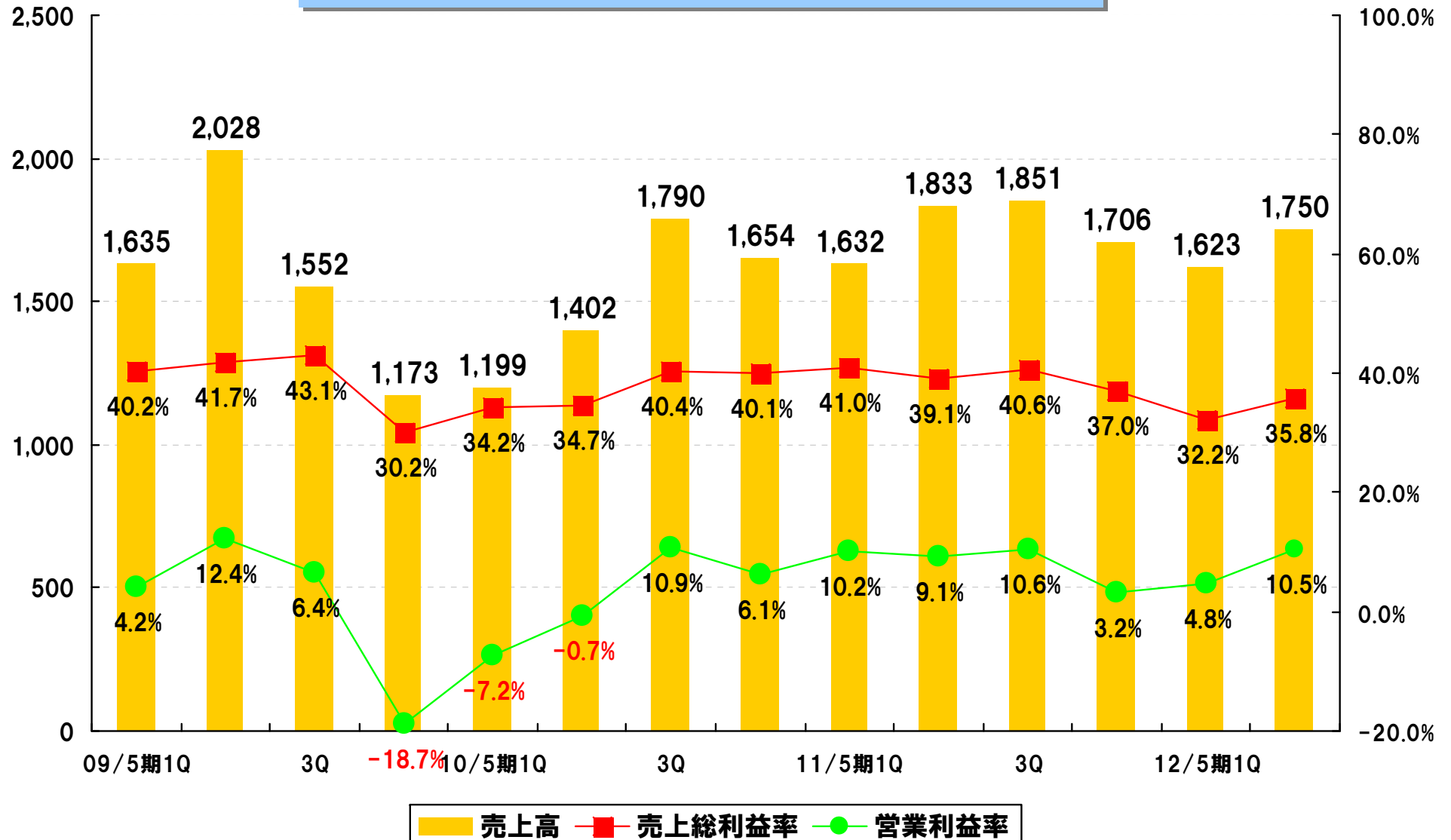
- ◎ 売上高は、民間・官公庁向け研究開発分野の予算執行時期の見直しや産業分野の新規設備投資低迷の影響を受け、若干ながら減収。
携帯端末市場の動きが年度末にずれ込む傾向に引きずられ、関連する半導体業界、FPD業界向けの光学要素部品の需要が横ばい傾向。バイオ業界向けの自動位置決め装置は堅調に推移。
- ◎ 営業利益、経常利益及び四半期純利益は、前年同期比では減益も、販売促進費をはじめとする全般的なコスト削減の推進、及び試験研究費や広告宣伝費の当社予算執行時期の見直し等の削減効果があり、期初業績予想数値に対しては大幅増益。

（注）期初予想は2011年7月8日付発表の数字。

四半期売上高・利益率推移（連結）

（単位:百万円未満切捨）

四半期実績（2009/1Q~2012/2Q）



セグメント別 売上高・営業利益推移（連結）

売上高

(単位:百万円未満切捨)

製品区分	10/5期 2Q累計	11/5期 2Q累計	12/5期 2Q累計	構成比率	対前年同期 増減率
要素部品事業	2,278	3,097	2,952	87.5%	-4.7%
光学基本機器製品	903	1,059	1,072	31.8%	1.3%
自動応用製品	448	574	551	16.3%	-3.9%
光学素子・薄膜製品	925	1,464	1,327	39.4%	-9.3%
システム製品事業	323	368	421	12.5%	14.3%
光学システム製品	323	368	421	12.5%	14.3%
合計	2,601	3,465	3,373	100%	-2.7%

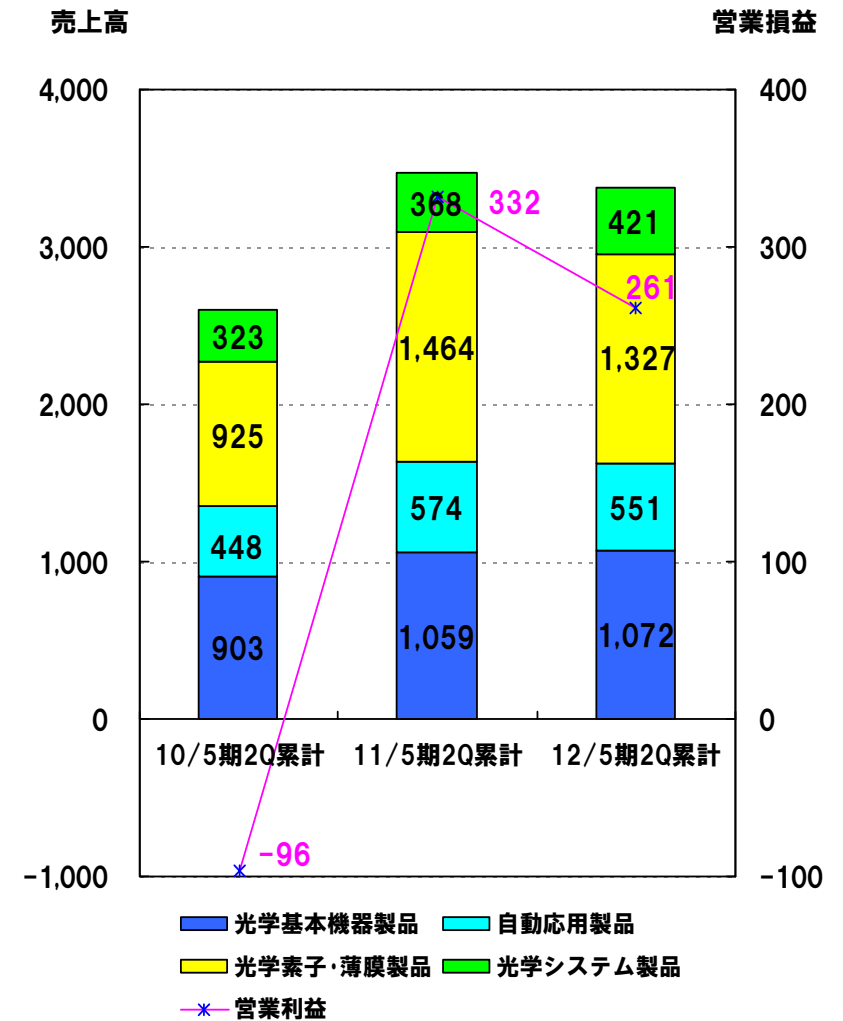
営業損益

(単位:百万円未満切捨)

製品区分	10/5期 2Q累計	11/5期 2Q累計	12/5期 2Q累計	増減率
要素部品事業	153	619	533	-13.9%
システム製品事業	-51	-98	-63	-
消去	-198	-188	-209	-
合計	-96	332	261	-21.5%

(単位:百万円未満切捨)

(単位:百万円未満切捨)



海外販売先別売上高構成比推移（連結）

（単位:百万円未満切捨）

	2011/5期		2012/5期		
	2Q累計	構成比	2Q累計	構成比	増減率
売上高	3,465	100.0 %	3,373	100.0%	-2.7 %
海外売上高	836	24.1 %	808	24.0 %	-3.3 %
北米	290	8.4 %	316	9.4 %	8.7 %
アジア・オセアニア	486	14.0 %	432	12.8 %	-11.0 %
ヨーロッパ	51	1.5 %	51	1.5 %	-0.1 %
その他	7	0.2 %	8	0.3 %	13.5 %

◎世界的な携帯端末市場の需要増加に牽引された半導体業界、FPD業界、また通信業界に対する光学素子製品及び光学基本機器製品をはじめとした要素部品事業が主軸。

◎中国の金融引き締め政策等によるアジア新興国圏の経済成長鈍化や欧州財政危機の影響によりアジア・オセアニア地域での売上減少も、北米地域では販売・サポート強化が奏功し売上増加。

グループ所在地別売上高・営業利益推移（連結）

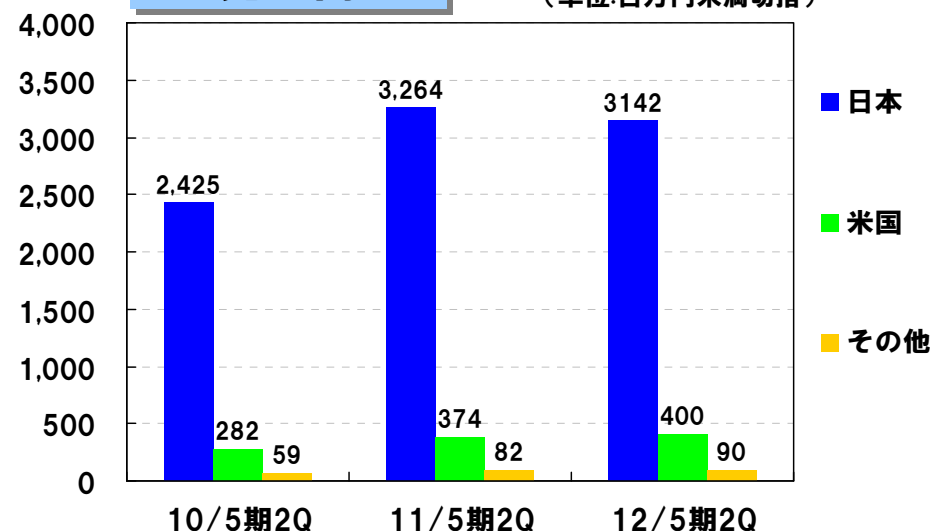
（単位:百万円未満切捨）

		日本	米国	その他	消去 又は 全社	計
2010/5 2Q累計	売上高	2,425	282	59	-165	2,601
	営業利益	110	-1	-7	-198	-96
2011/5 2Q累計	売上高	3,264	374	82	-255	3,465
	営業利益	515	10	-4	-188	332
2012/5 2Q累計	売上高	3,142	400	90	-259	3,373
	営業利益	457	16	-4	-208	261

売上高

※消去額を除く

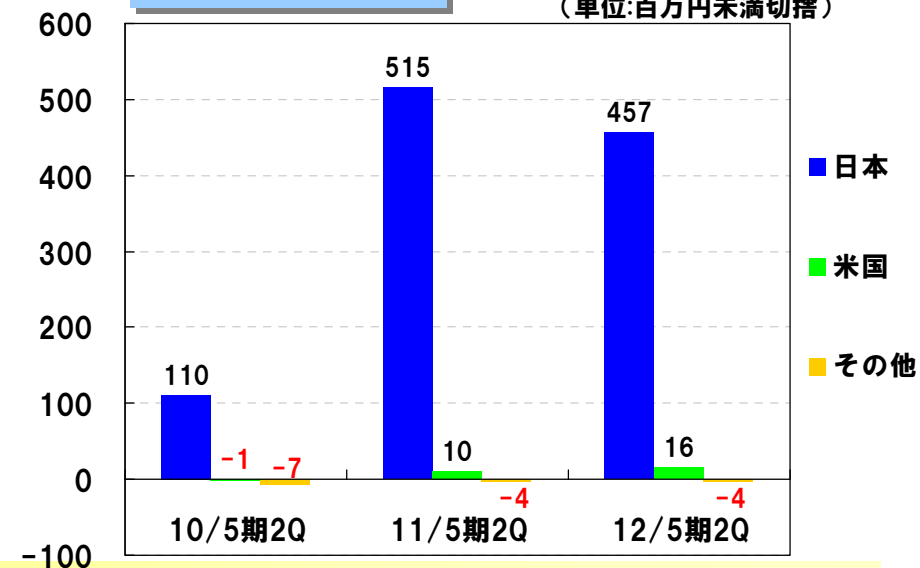
（単位:百万円未満切捨）



営業利益

※消去額を除く

（単位:百万円未満切捨）



2012年5月期第2四半期 売上原価の状況（連結）

（単位：百万円未満切捨）

	2011/5期		2012/5期		
	2Q累計	構成比	2Q累計	構成比	増減率
売上高	3,465	100.0%	3,373	100.0%	-2.7%
材料費等	1,183	34.2%	1,136	33.8%	-4.0%
労務費	624	18.0%	741	22.0%	18.8%
減価償却費	123	3.5%	155	4.6%	26.5%
その他	149	4.3%	190	5.4%	27.5%
売上原価	2,079	60.0%	2,223	65.8%	6.9%
売上総利益	1,385	40.0%	1,149	34.1%	-17.0%

◎材料費等の減少は、売上高減少に伴う材料仕入費の減少が主要因。

◎労務費の増加は、本年度から生産支援業務に係る人件費を労務費に付け替えたこと、並びに昨夏の電力使用制限の影響による生産体制の夜間シフト等による増加が主要因。

◎2007/5期からの積極的な設備投資による高水準の減価償却費が継続。

◎その他の増加は、内製化の推進により外注加工費は減少したが、生産改革に伴って本年度から販売管理費の一部を売上原価へ付け替えたことにより増加。

2012年5月期第2四半期 販売管理費の状況 (連結)

(単位:百万円未満切捨)

	2011/5期		2012/5期		
	2Q累計	構成比	2Q累計	構成比	増減率
売上高	3,465	100.0%	3,373	100.0 %	-2.7 %
販売促進費	53	1.6 %	83	2.5 %	54.1 %
広告宣伝費	31	0.9%	23	0.7 %	-26.4 %
人件費	556	16.0%	410	12.1 %	-26.4 %
減価償却費	40	1.2%	26	0.8 %	-34.6 %
試験研究費	60	1.8 %	121	3.6 %	100.3 %
その他	309	8.9 %	223	6.6 %	-27.7 %
販売管理費	1,053	30.4%	888	26.3 %	-15.6 %

◎生産支援業務に係る人件費などの経費の売上原価への付け替え、及び経費予算の執行時期の見直し等の経費コントロールによって、販売管理費全体では前年同期比で減少。

◎試験研究費や販売促進費については、前年同期比では増加。

バランスシート概要

(単位:百万円未満切捨)

	2011/5期 2Q	2011/5期 通期	2012/5期 2Q	増減 (対前期末比)	備考
現金・預金	2,298	2,313	2,114	-8.6 %	短期資金運用(金銭信託)
受取手形・売掛金	2,046	2,057	1,936	-5.9 %	
棚卸資産	1,493	1,716	1,888	10.0 %	
その他流動資産	446	367	542	47.7 %	有価証券(金銭信託)
有形・無形固定資産	3,582	3,501	3,368	-3.8 %	
投資等	3,115	3,129	3,132	0.1 %	
資産合計	12,983	13,086	12,983	-0.8 %	
支払手形・買掛金	903	918	769	-16.2 %	
短期借入金	184	136	156	14.1 %	
その他流動負債	458	613	474	-22.7 %	未払法人税
長期借入金	133	81	178	119.8 %	
その他固定負債	552	603	612	1.4 %	
純資産合計	10,752	10,733	10,793	0.6 %	配当金支払、自己株式処分、 為替換算調整
負債・純資産合計	12,983	13,086	12,983	-0.8 %	

キャッシュフロー概要

(単位:百万円未満切捨)

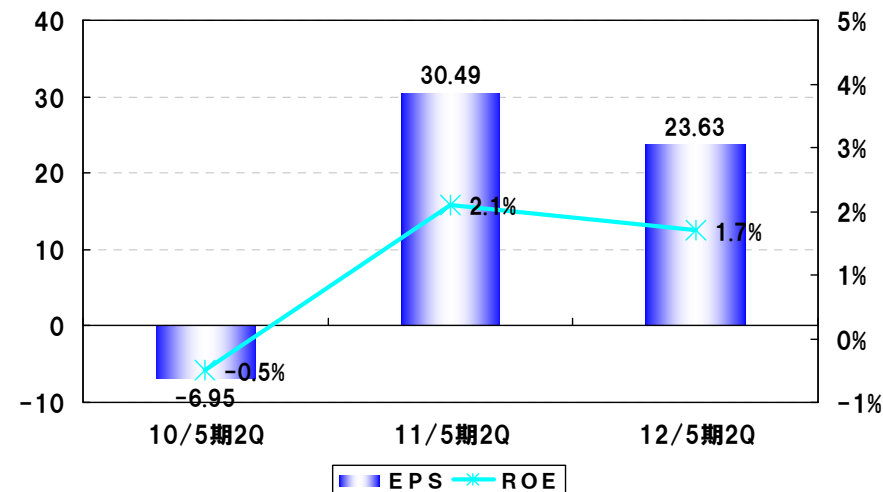
	2010/5期 2Q	2011/5期 2Q	2012/5期 2Q	備考
営業活動	513	268	102	法人税の支払い及び棚卸資産の増加。
投資活動	-102	-231	-362	有価証券の純増加による減少。 有形無形固定資産の取得による減少。
フリーキャッシュフロー	410	37	-260	
財務活動	-252	-70	66	借入金の調達及び自己株式の処分による増加。 配当金支払、長期借入金返済による減少。
現金及び 現金同等物の期末残高	1,411	1,934	1,658	

収益性分析の概要

連結EPS・ROE

	2010/5期 2Q	2011/5期 2Q	2012/5期 2Q
当期純利益（百万円）	-51	227	176
1株当たり 当期純利益（円）(EPS)	-6.95	30.49	23.63
自己資本 当期純利益率（%）(ROE)	-0.5	2.1	1.7

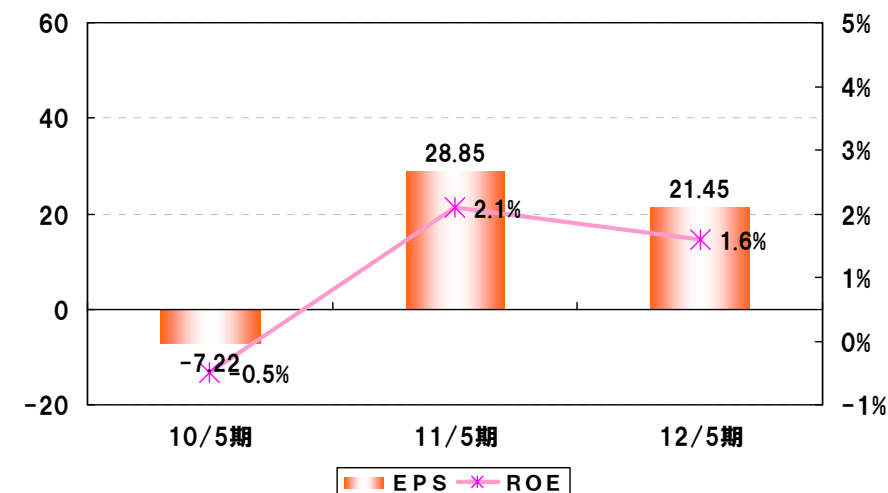
（単位：円）



単体EPS・ROE

	2010/5期 2Q	2011/5期 2Q	2012/5期 2Q
当期純利益（百万円）	-53	214	160
1株当たり 当期純利益（円）(EPS)	-7.22	28.85	21.45
自己資本 当期純利益率（%）(ROE)	-0.5	2.1	1.6

（単位：円）



1. 2012年5月期第2四半期 決算概要
経理部副部長 石井 康之
2. 2012年5月期 通期見通し
取締役経営企画室長 山口 秀一
3. 2012年5月期 成長戦略
代表取締役社長 森 吟二
4. 質疑応答

2. 2012年5月期通期計画（連結）

（単位：百万円未満切捨）

	2011/5期 実績	2012/5期			通期増減（対前期比）		期初予想（2011.7.8）	
		上期実績	下期予算	通期予算	金額	増減率	金額	修正額
売上高	7,024	3,373	3,976	7,350	325	4.6 %	7,350	0
営業利益	582	261	218	480	-102	-17.6 %	480	0
営業利益率	8.3 %	7.7 %	5.5 %	6.5 %	—	—	6.5 %	—
経常利益	732	324	295	620	-112	-15.3 %	620	0
当期純利益	330	176	183	360	29	8.9 %	360	0
1株当り純利益（円）	44円38銭	23円63銭	—	48円33銭	—	—		

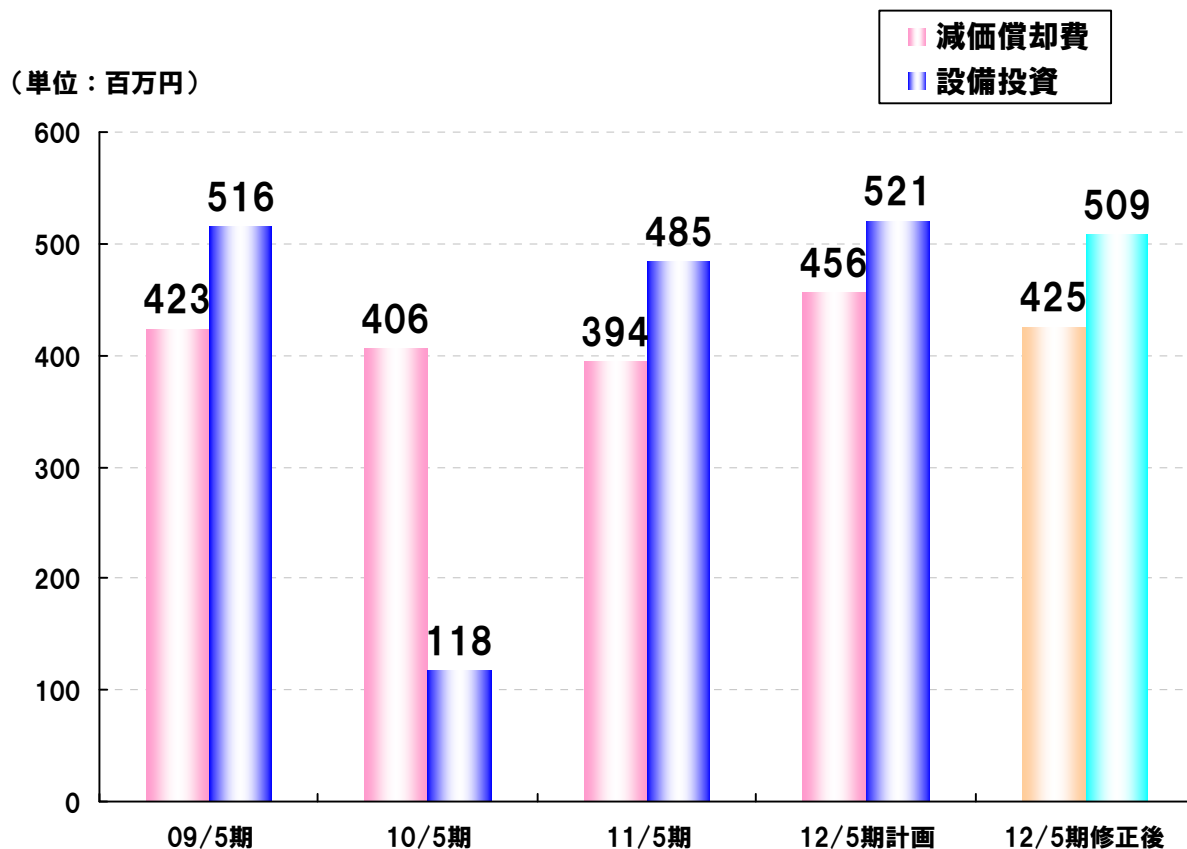
（本予想は、為替レート1米ドル=78円、1人民元=12円を前提としております。）

◎為替や景気の先行きについて不透明な状況であり、慎重な通期計画ではあるが、継続的な経費コントロールと下半期の回復基調を勘案して通期業績予想は修正せず。

◎生産能力と技術レベルの向上を図るため、継続して設備投資と研究開発を実施予定。

設備投資・減価償却費推移（連結）

設備投資・減価償却費



補足説明

◎主要設備投資

○09/5期

- ・新鋭真空蒸着装置等 1.3億円
- ・真空蒸着装置更新 0.7億円

○10/5期

- ・真空蒸着装置更新 0.3億円
- ・情報システム投資 0.2億円

○11/5期

- ・光学素子製品高度化投資 1.0億円
- ・オプトシグマ新社屋
移転改修工事 1.9億円

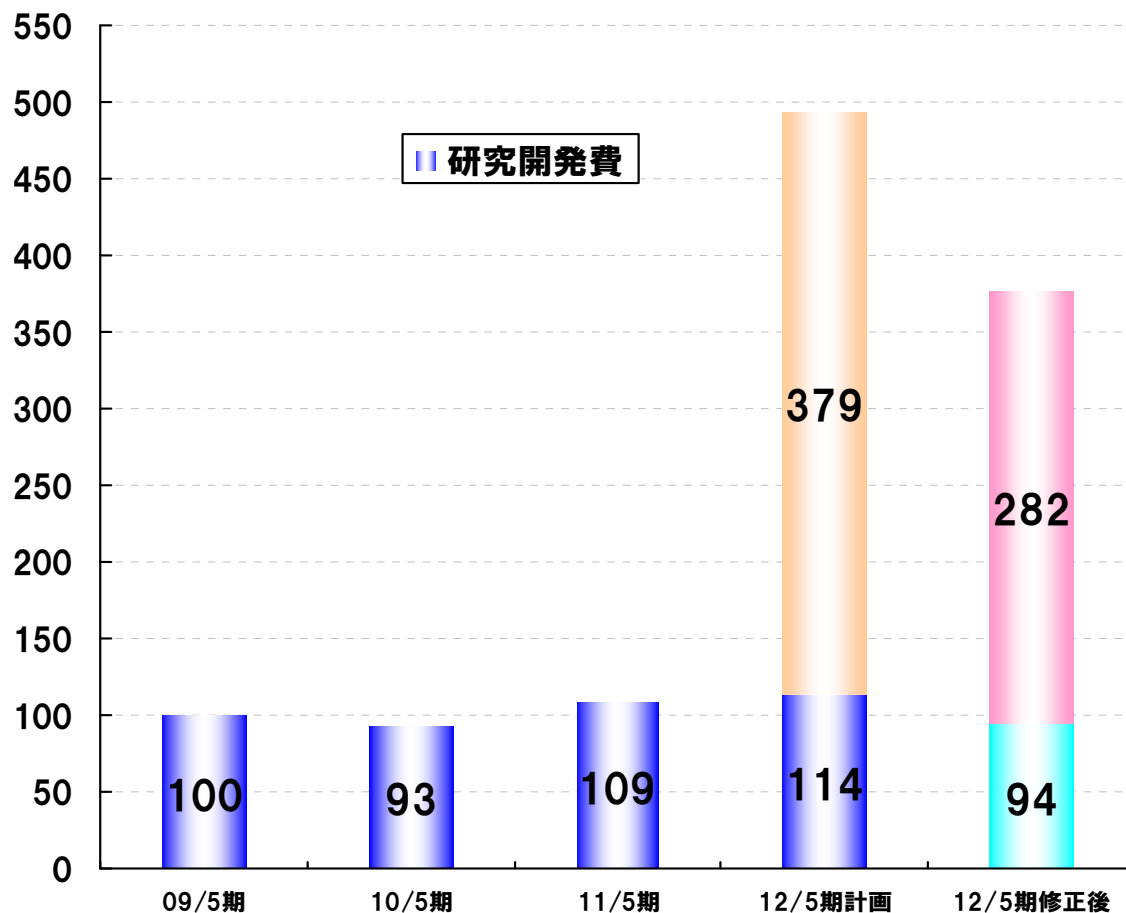
○12/5期(修正)

- ・当社グループ
光学素子製品高度化投資 2.0億円
- ・情報システム投資 1.3億円
- ・日高工場・東京本社
改修工事費 0.4億円

研究開発費推移（連結）

研究開発費

（単位：百万円未満切捨）



（注）11/5期までの研究開発費には、人件費を含んでおりません。

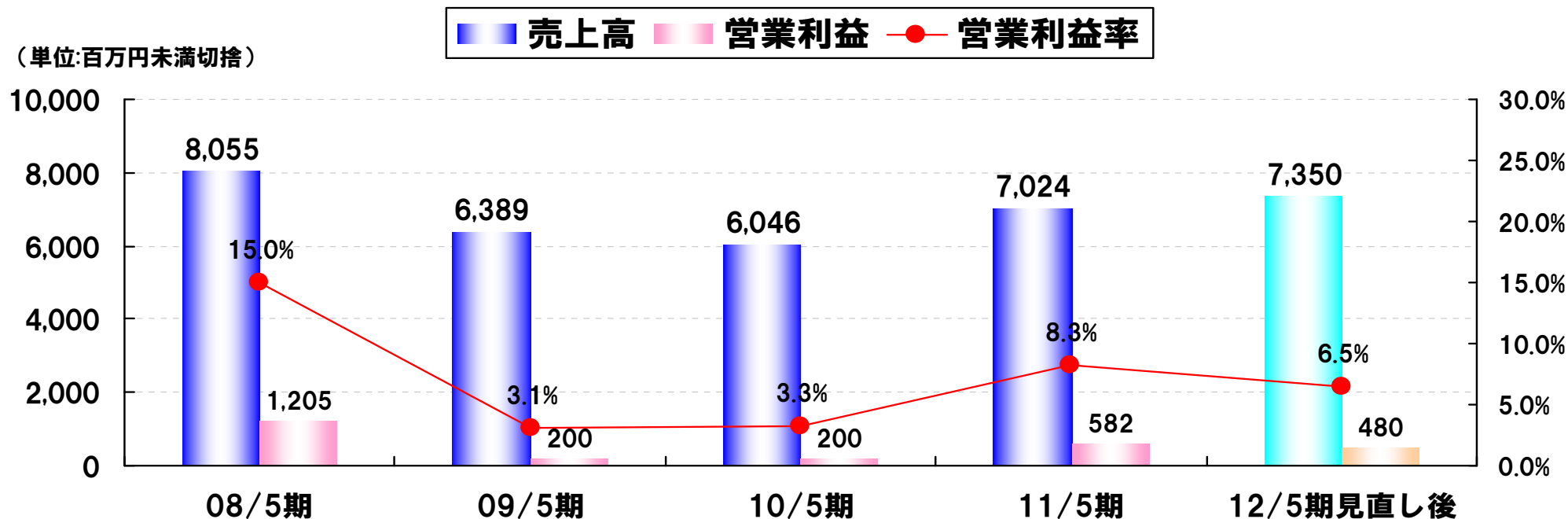
補足説明

（単位：百万円未満切捨）

	自社	産学官連携
09/5期	65	35
10/5期	57	36
11/5期	77	32
12/5期計画	105	9
12/5期修正	85	9
	人件費等	人件費込 売上高比率
12/5期計画	379	6.7%
12/5期修正	282	5.0%

※12/5期より、生産部門の人件費のうち研究開発に充当した工数を研究開発費に付け替えております。

売上高・営業利益・営業利益率推移



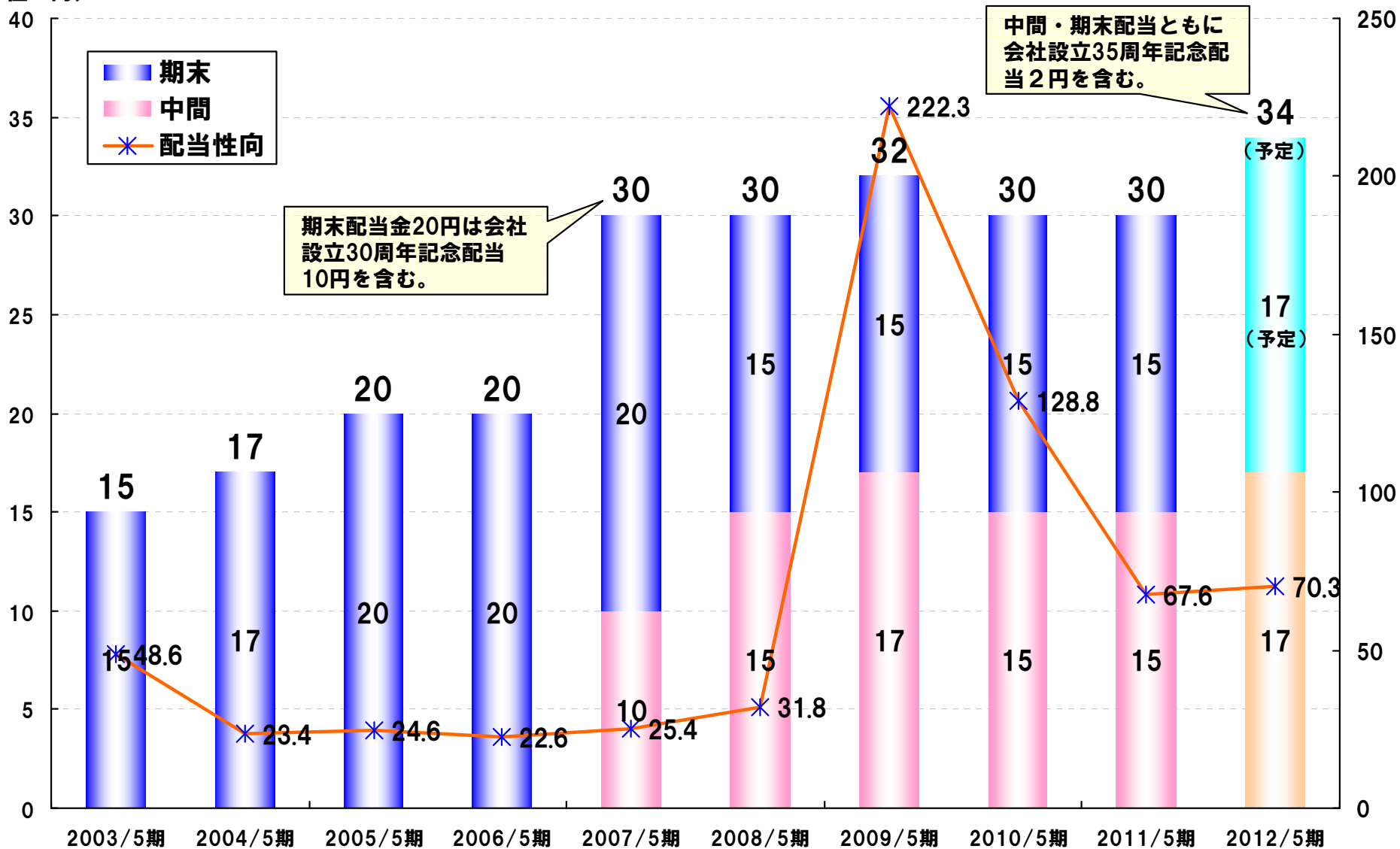
* 強固な財務体質を堅持

- ① 自己資本比率 FY08:82.2% → FY12/2Q:82.9%
- ② 利益剰余金 FY08:5,749百万円 → FY12/2Q: 5,549百万円
- ③ 純有利子負債 FY08:▲1,044百万円 → FY12/2Q: ▲1,780百万円

配当金推移

継続的・安定的な配当の実行

(単位：円)



1. 2012年5月期第2四半期 決算概要
経理部副部長 石井 康之
2. 2012年5月期 通期見通し
取締役経営企画室長 山口 秀一
3. 2012年5月期 成長戦略
代表取締役社長 森 吟二
4. 質疑応答

1. 当社を取り巻く経営環境

通販業界トップ5

日本、アジア市場争奪戦

2. 成長戦略

経営方針

営業、開発、生産、海外子会社

1. 当社を取り巻く経営環境

<通販競合業界事情>

【通販業界 トップ5】

社名	本社	備考
Newport	米国	業界キング
CVI-MG	米国	光学薄膜、レンズ
Thorlabs	米国	光通信機器
Edmund Op.	米国	光学素子、レンズ
シグマ光機	日本	日本キング

*Newport は NASDAQ上場

1. 当社を取り巻く経営環境

<競争激化のアジア市場>

【米国勢事情】

- **欧米市場の飽和／アジア市場の伸張**
日本／アジア市場への進出
- **アジアからの米国留学生の激増**
帰国後の米国製品使用
- **強いグローバル展開力**
ブランド、マーケティング、製品開発

1. 当社を取り巻く経営環境

<競争激化の日本市場>

【日本国内事情】

- ・ **国内一強のシグマ光機**
縮退した国内他社
- ・ **強い米国勢製品力（機能、デザイン）**
超円高による米国製品割安感
- ・ **米国勢の本格参入**
米国製品の伸張

2. 成長戦略

<ビジネスピラミッド>

国内・海外マーケット

(カタログ、対面提案、WEB、展示会)

要素部品とユニットをベースに光ソリューション

(規格・特注 フルメニュー トータルサービス)

基本機器製品

自動応用製品

光学素子製品

システム製品

営業・開発・生産・経営管理・OS・SSK

人財と資金

2. 成長戦略

【経営方針】

- 要素技術をベースに
カタログ製品とOEM製品
- パーツ、ユニット、ミニシステム
をベースに 光ソリューション
- 内を固めつつ、外へ

2. 成長戦略

【優先注力事項】

- **製品ポートフォリオ再整備**
米国勢迎撃製品
- **生産体制の整備**
円滑生産とコストダウン（QCD）
- **レンズユニットのラインナップ**
対物、集光、F θ レンズ等

【シグマ光機の優位性】

- **フルメニューの製品群**
光ソリューションに有利
- **地の利**
アジア産業用市場に有利
- **工場力**
産業用OEM製品に有利

【営業】

- ・ **企業ブランドの浸透**

海外展示会を通じ認知度の向上

- ・ **製品ポートフォリオの見直し**

米国勢迎撃製品

カタログ、WEBの整備



東京本社



大阪支店



九州営業所



オプトシグマ

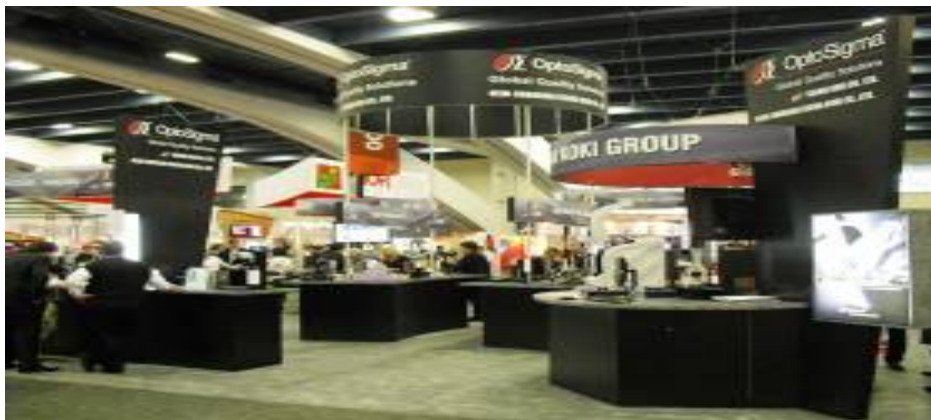


上海シグマ光機

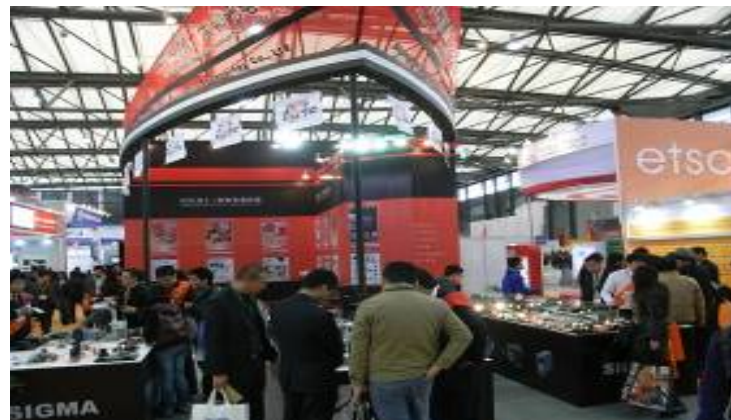
2. 成長戦略

【海外展示会】

Photonics West 2011 サンフランシスコ
(2011年1月25日~27日)



LASER World of PHOTONICS China 2011
(2011年3月15日~17日) 上海

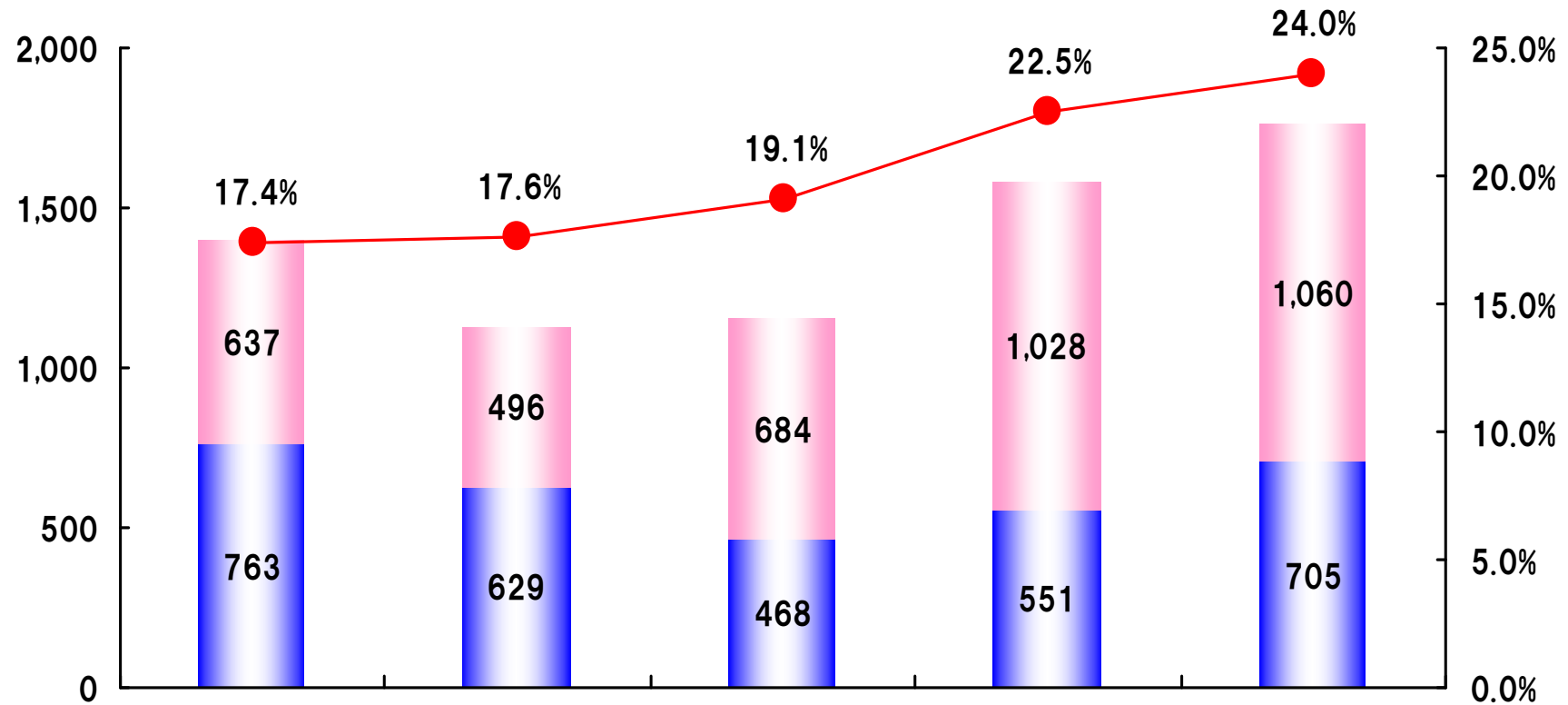


2. 成長戦略

【海外売上高推移】

(単位:百万円)

■ 北米 ■ その他の地域 ● 海外売上高比率



(単位:百万円)

	FY08	FY09	FY10	FY11	FY12
海外売上高	1,400	1,125	1,153	1,579	1,764 (予)
全社売上高	8,055	6,389	6,046	7,024	7,350 (予)

2. 成長戦略

【開発】

- ・ 要素技術のブラッシュアップと新製品
技術者増員、育成等人財投資

光学設計技術、機構設計技術、制御技術
ソフトウェア技術、システム化技術



東京本社



本社・日高工場

2. 成長戦略

【生産】

- **円滑生産とコストダウン**
生産本部－3工場統括（2011/6～）
- **精密加工技能者増員、育成、多能工化**
モノづくり体制基盤強化（QCD）
- **光学素子部門優先投資**
研磨、薄膜、評価



本社・日高工場



技術センター



能登工場

2012年全社スローガン

生産改革の推進

狙うは

- ・ 収益力の再生
- ・ 円滑生産とコストダウン
- ・ 賞味期限10年の生産システム

【海外子会社】

オプトシグマ (米国、CA)



(外観)

上海シグマ光機 (中国、上海)



(外観)



(事務室)



(コーティング室)



(検査室)

【オプトシグマ トピックス】

☆経営基盤強化

増資 : 10万\$ ⇒ 260万\$ (2011/10)

イーストオフィス : 新設

☆取引先メーカーの海外シフト

オプトシグマの主要市場

⇒ バイオ、メディカル、コスメ関連

- 生産工場 - 中南米
- 開発拠点 - シンガポール他

将来の見通しに関する注意事項

ご清聴ありがとうございました。

本説明会にて提供させていただいた情報および本資料内に記載されている当社グループに関する業績予想、方針、経営戦略、目標等に関しては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。

よって、今後様々な要因により将来の見通しに関する記載事項や予想数値等が変化することが考えられます。すなわちこれら記載事項や予想数値等はその性質上、将来そのとおりに実現するという保証はいたしかねますのでご留意ください。